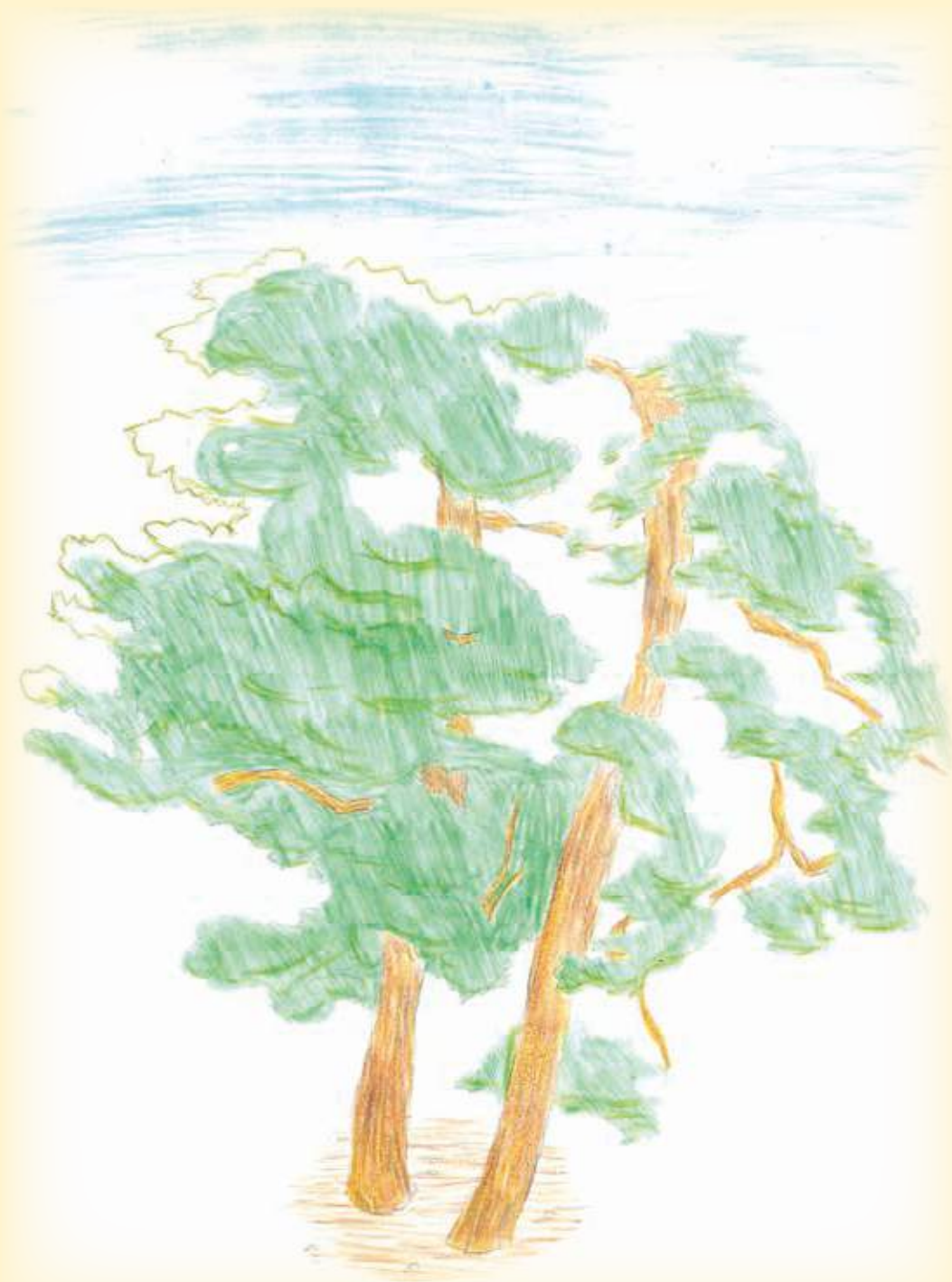


たい し まつ もの がたり
大志の松 物語



いわき市立草野小学校

発行によせて

このたび、皆様のご協力により絵本「大志の松 物語」を発行させていただくことになりました。

草野地区、草野小学校のシンボルでもあった樹齢400年以上を誇る大志の松は、令和2年9月9日（月）、台風15号の影響により倒木いたしました。

「大志の松のようにしっかり根を張った人間になろう」、「大志の松からパワーをもらおう」等、大志の松は草野小学校の子どもたちにとって、心の支えとなる大切な存在でした。草野地区の住民の皆様にとっても、戦前は神木として、戦後も親しみをもって、大志の松の下で多くの思い出ができたとうかがっております。

そんな大志の松を、私たちの心にいつまでも残していきたい、そんな思いから絵本を発行することとなりました。

作成にあたっては、地域の皆様や卒業生から大志の松にまつわる思い出を学校に寄せていただきました。それをもとに、前草野小学校教頭 佐伯 哲夫先生が、一つの物語として文にまとめてくださいました。絵は、現在草野中学校1年生の遠藤 環仁君と現在草野小学校5年生の西内 ひなたさんです。

読み終わった後は、ほっこり温かく、そして、また明日から頑張っていこうという気持ちにさせてくれる絵本です。

発行にあたり、佐伯先生、環仁君、ひなたさんはじめ地域の皆様には本当にお世話になり、ありがとうございました。お手元においていただき、大切に読んでいただければ幸いです。



いわき市立草野小学校長

福羽 由佳子

大志の松 物語

いわき市立草野小学校





(わしは、大志の松。

この地に根ざして、どうやら400年以上のようだ。

正直なところ、400年を越えた頃から、

わしも自分の年がいくつになったか忘れてしまうたあ。)

(この400年の間をふり返ると、いろいろなことがあったもんだなあ。)

(その昔、武士の時代には、わしの下をたくさんの侍が通っていったものじゃ。

時には、長い侍の行列が通ったりしたもんじゃ。

その後、陸前浜街道と名前が変わっても、旅人が通っていった。先を急ぐたくさんの旅人にとって、わしは日よけの休憩の場所にはなっても、ただの風景でしかなかった。)

(しかし、時代が変わってわしの近くに小学校ができると、たくさんの子どもたちがわしを見上げてくれるようになった。)



(なにやら、新しい天皇が即位された時には、その記念にわしの目の前に立派な奉安殿が作られた。

校門近くにできた奉安殿に、毎朝登校してきた子どもたちが、手を合わせて一礼して通っていたものじゃった。

毎朝、たくさんの子が礼をしてくれて、えらい木になったようで、いい気持ちになったもんじゃ。)

(その後、長くつらい戦争の時代が続いたが、その戦争が終わると奉安殿は取り壊されてしまった。

でも、小学校は残ったので、その後もたくさんの子どもたちが、わしを見上げてくれたんじゃよ。)



(4月になると黄色い帽子をかぶった1年生が、よくわしの下で記念
写真をとっていったもんじゃない。)

(おや? あの子は、うれしい入学式の日泣いておるな。どうした
んじゃない?)

「ひなちゃん、しょうがないでしょ。お父さんもお母さんも仕事
で忙しかったんだから。入学式で泣きながら返事をするなんて、
おばさんはずかしかったわよ」

「だって、おばさん……、えーん」

「ほらほら、泣いていたら、お父さんもお母さんも心配するから、
大志の松の前で笑って写真を撮りましょ。はい、チーズ！」

(そうじゃ、そうじゃ、おばさんの言うとおりにじゃ。)

これから6年間、まだまだ大変なことがあるぞ。

こんなことで泣いてちゃだめだぞ。いっぱい勉強して、

わしのように大きくなるんじゃない!)



泣き顔で小学校生活をスタートしたひなちゃん、
少しずつ学校にも慣れてきた数年後のある日のこと・・・

大志の松に登ろうとしている
数人の男の子を
職員室から見つけた先生。

「こらー、何をしてるんだ！」

「ひゃー、見つけた」

「まずい、にげるー」

「大志の松に登ろうとするとは、
ばかなことをするなー！」



見ていた女の子、数人。

「全く男子って、ほんとに馬鹿なことをするわねー」

「ほんとに」

「それよりさ、『草野小の
七不思議』って知ってる？」

「何それ？」

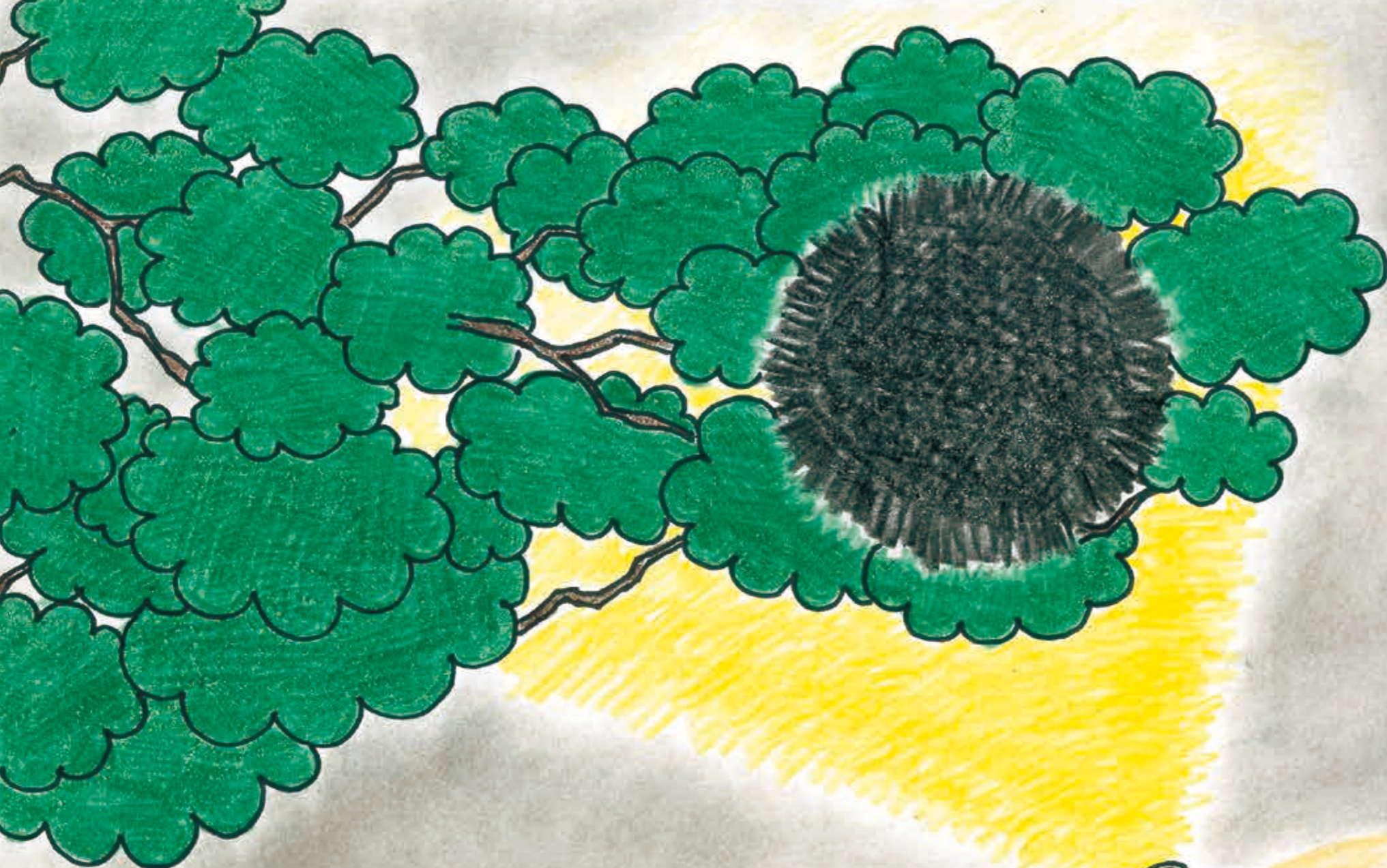
「大志の松の上には生首があるんだって！」

「えー、うそ！ほんとに？」

「昼間は見えないんだけど、
夜になると生首が出てくるんだって・・・
ねえ、今日暗くなってから見に来ない？
ひなちゃんどう？」

「うーん、
ちょっと怖いけど・・・
行ってみようか」





その日の夜のこと。

懐中電灯を持って大志の松の下に現れた女の子三人。

「やっぱり、夜の学校ってなんだか怖いね」

「本当に大志の松の上に生首があるのかな？」

「うわさだと、大志の松の一番高いところらしいけど……」

三人で懐中電灯で大志の松の上の方を照らしてみると……

「ねえ、あそこに何か丸いものが見えない？」

「えっ、どこどこ？」



その時、風が吹いてきて、
丸いものが大志の松から落ちてきた。

「きゃーっ」





こわごわ懐中電灯を当てると、
そこには、ぽんぽんと大きく跳ねるサッカーボール。

「サッカーボールじゃない」

「そうか、昼間、大志の松に登ろうとしていた男子たち……」

「自分たちのサッカーボールを取ろうとしていたんだあ」

「なーんだあ」



卒業前に大志の松をバックに記念写真を撮る卒業生。

(泣き虫だったあの女の子ももう卒業かあ。早いもんじゃのう)

「いいか、みんなもうすぐ卒業だけど、中学校に行っても、
この大志の松のように強く大きく成長していくんだぞ！
決して、大志の松に登るような馬鹿なことを、
やるんじゃないぞ！」

(みんな、中学校に行ってもがんばれ！わしがここから見てるぞ！)



卒業して数ヶ月後・・・

(お、あれはこの前卒業した女の子じゃ。
なんだか元気がなさそうじゃな。)

「あーあ、小学校の頃は楽しかったなあ。

中学生になったら、急に勉強は難しくなるし・・・

仲のよかった友達も部活が忙しくて

遊んだりできないし・・・あーあ、

なんだかつまらないなあ。」

見上げると、大志の松が風に吹かれて揺れていた。

「大志の松はいいなあ。悩みなんかないんだろうな・・・」

(何を言っとるか！ 長年生きとるわしにだって、悩みぐらいあるわ。

昔は、仲間の松と一緒にいたが、朽ちて伐採されてしまった。

そして、わしもひとりぼっちじゃ。

何のためにここに立ち続ければいいのか・・・。)

「・・・そうだよな。・・・暑い日も、寒い日も、風の強い日も、
雨や雪の降る日もずーっと、長い間頑張って立ち続けているんだよ
ね。何百年と頑張ってきた大志の松から比べたら、まだ十数年しか
生きていない私の悩みなんか、ちっぽけなもんだよね・・・。
明日から頑張ろうっと！」

(そうじゃ、その通りじゃ、あんたの人生はまだまだ始まったばかりじゃ！
わしがここにいることで、子どもたちの力になるのなら、まだまだ
わしも頑張るぞ！)

大志の松は、2011年3月の東日本大震災の大きな揺れにも耐え、
みんなに力を与え続けた。



A child's drawing depicting a storm scene. The background is filled with dense, horizontal blue and white strokes, suggesting heavy rain or strong wind. In the center, a tall, thin tree with a yellow and brown trunk and green foliage stands. To the left, a brown snake is coiled. To the right, a red and white can and a white piece of paper are shown floating or blowing in the air. The overall style is expressive and illustrative.

そして、令和元年9月9日（月）。

関東で二千本もの電柱をなぎ倒し、
大規模な停電を起こした台風15号が

いわき市を直撃し、強い雨と風が吹き荒れていた。

いわき市では、北東の風が最大瞬間風速35mを越えていた。

(力が入らない・・・ もう限界じゃ・・・
考えてみれば、ここまで長生きできたのは、
子どもたちの元気な声が
わしの力になっていたからだなあ・・・
今日は子どもたちの声が聞こえないから、
みんな休みなのか？・・・
今日倒れれば、誰も傷つけることなく
倒れることができるか・・・
でも、最後にみんなに会いたかったなあ・・・
元気な声を聞きたかったなあ・・・
みんなわしを忘れないでいてくれ・・・)

大志の松は、静かに倒れていった。



台風が過ぎ、静かなそして夕日がきれいな夕暮れ時。

どこでその知らせを聞いたのか、
続々と地域の方々が校庭に集まってきた。
誰もが何も話さず、ただ大志の松を囲み、
その倒れた姿をじっと見ていた。

大志の松は、まだかすかに息をしていた。

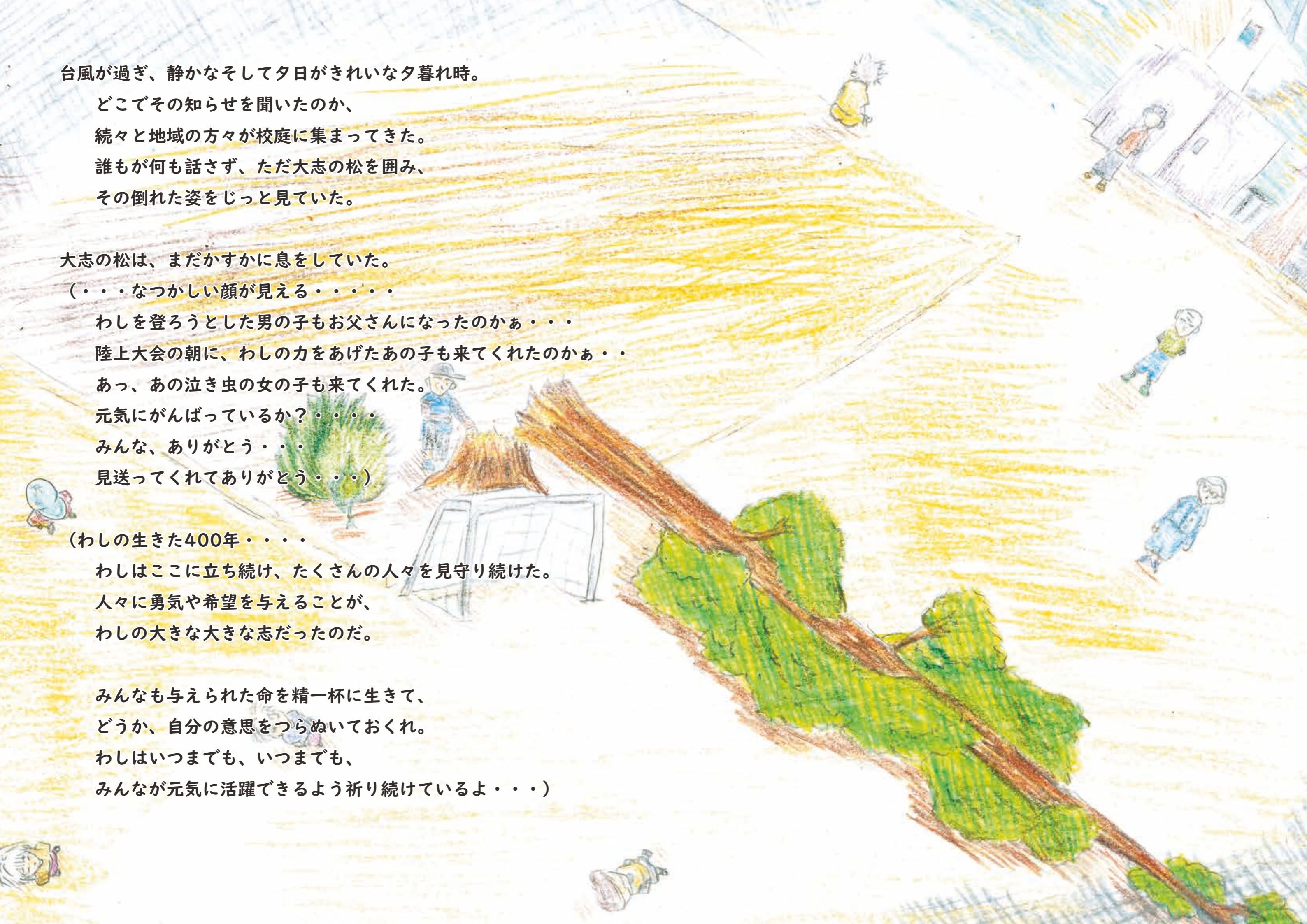
(・・・なつかしい顔が見える・・・)

わしを登ろうとした男の子もお父さんになったのかあ・・・
陸上大会の朝に、わしの力をあげたあの子も来てくれたのかあ・・・
あっ、あの泣き虫の女の子も来てくれた。
元気にがんばっているか？・・・
みんな、ありがとう・・・
見送ってくれてありがとう・・・)

(わしの生きた400年・・・)

わしはここに立ち続け、たくさんの人々を見守り続けた。
人々に勇気や希望を与えることが、
わしの大きな大きな志だったのだ。

みんなも与えられた命を精一杯に生きて、
どうか、自分の意思をつらぬいておくれ。
わしはいつまでも、いつまでも、
みんなが元気に活躍できるよう祈り続けているよ・・・)



現在、大志の松の子にあたる希望の松が、

すくすくと成長している。

大志の松の意思を継いで草野の子どもたちや人々を

温かく見守っていくことであろう。





昭和55年撮影 2本の大志の松



令和元年5月
ありし日の残された1本の大志の松



令和元年9月9日
台風15号により倒木



形を変えてよみがえった大志の松
令和2年10月29日
大志の松 刻字プレート贈呈式

大志の松 物語

2020年 11月発行

- 発行 いわき市立草野小学校「大志の松 物語」制作委員会
- 文 佐伯 哲夫
- 絵 遠藤 環仁 西内ひなた
- 編集 「大志の松 物語」制作委員会
- 協力 草野小学校卒業生
草野地区地域の皆様

印刷・製本 長瀬印刷株式会社

〒971-8101 福島県いわき市小名浜字渚廻51-2

